

『架橋』 総目次

創刊号 (1980年冬 1月15日発行)

- エッセイ特集「会とわたし」
 - 磯貝治良……………「会のあゆみー中間記録ふうに」
「会のこれからは」
 - 蔡 太吉……………「独白」
 - 安田寛子……………「さらさねばならないもの」
 - 中山峯夫……………「朝鮮人と、父と」
 - 藤本由紀子……………「〈読む会〉と私」
 - 竹内 新……………「極楽トンボ」
 - 五十棲達彦……………「〈読む会〉に参加して」
 - 裴 鐘眞……………「朝鮮人としての再発見」
- 会録 あとがき

2号 (1980年夏 7月15日発行)

- エッセイ
 - 磯貝治良……………「〈民衆〉という陥穽ー『見果てぬ夢』一つのこと」
 - 蔡 太吉……………「金石範の小説に触れて」
 - 劉 竜子……………「架橋に寄せて」
 - 藤本由紀子……………「私自身をとりもどすための」
 - 小室リツ……………「作品の中の朝鮮の婦女たち」
- 「なかまの情報」 あとがき

3号 (1981年春 5月1日発行)

- 評論
 - 裴 鐘眞……………「傷だらけの構図ー李恢成著『死者の遺したもの』を読んで」
- エッセイ
 - 文 学謙……………「喪失と脱自」
 - 与 語潮……………「架橋小話」
 - みたたみ……………「自分にとっては」
 - 磯貝治良……………「抵抗史を継ぐー許南麒『火縄銃のうた』」
- 短歌
 - 権 星子……………「命運憶う」11首
- 会録 あとがき

4号 (1982年夏 7月1日発行)

○評論

裊 鐘眞……………『見果てぬ夢』雑感ノート」 1

○エッセイ

劉 竜子……………『見果てぬ夢』の中の女たち

与 語潮……………「友人の花嫁」

○「幕間のひとこと」 会録

5号 (1984年春 4月10日発行)

○小説

磯貝治良……………「梁のゆくえ」

劉 竜子……………「夏」

○評論

裊 鐘眞……………『見果てぬ夢』雑感ノート」 2

○記録

中山峯夫……………「農民兵士・父からの手紙」

○エッセイ

安田寛子……………「私の中の朝鮮人たち」

○短歌

醴 泉……………「対馬万緑」 28首

○「〈読む会〉への参加を」 会録 あとがき

6号 (1985年夏 7月1日発行)

○小説

磯貝治良……………「イルボネ チャンピョク」

劉 竜子……………「葉かげ」

松本昭子……………「野辺戯の日よ」

○評論

裊 鐘眞……………『見果てぬ夢』雑感ノート」 3

○エッセイ

鼓けいこ……………「キャノンボールに酔いながら」

渡部一男……………「思い出の朝鮮人たち」 1

○「〈読む会〉の愉しみ」 会録 あとがき

7号 (1986年秋 9月20日発行)

○小説

松本昭子……………「岬をめぐる旅」

磯貝治良……………「〈はん〉の日」

○評論

裊 鐘眞……………『見果てぬ夢』雑感ノート」 4

○エッセイ

渡部一男……………「思い出の朝鮮人たち」 2

○「批評と手紙」 会録 あとがき

8号 (1987年冬 12月1日発行)

○小説

磯貝治良……………「聖子の場合」

劉 竜子……………「紅いチマチョゴリ」

渡野玖美……………「南京虫のうた」

賈島憲治……………「雨森芳州の涙」

○エッセイ

成 真澄……………「履歴書を書く」

咸 安姫……………「〈読む会〉に参加して」

磯貝治良……………「〈読む会〉10年の覚書」

○交流誌紹介 会録

9号 (1989年春 1月29日発行)

○小説

磯貝治良……………「羽山先生と仲間たち」

劉 竜子……………「おとずれ」

渡野玖美……………「何処へ」

成 真澄……………「手」

賈島憲治……………「雨森芳州の憂鬱」

○エッセイ

朴 燦鎬……………「呼称について」

○交流誌紹介 会録 あとがき

10号 (1990年春 3月1日発行)

○小説

磯貝治良……………「羽山先生が哭く」

津田悠司……………「俺たちの旅」
賈島憲治……………「雨森芳州の孤独」

○エッセイ

朴 燦鎬……………「レクイエム 美空ひばり」
加藤忠和……………「金徳寿君との再会」
渡野玖美……………「韓国の愛人」

○「架橋」総目次 会録 あとがき

11号（1991年春 3月1日発行）

○小説

金 成根……………「闇のゆくえ」
津田悠司……………「さまよえるオランダ人1」
磯貝治良……………「羽山先生が怒る」

○詩

文 重烈……………「詩5篇 歌詞3篇」（朝鮮語・日本語対訳）
加藤忠和……………「本川橋の碑」

○会録 あとがき

12号（1992年春 3月1日発行）

○小説

磯貝治良……………「木槿」
津田悠司……………「さまよえるオランダ人2」
渡野玖美……………「屋根の下の幸福」
賈島憲治……………「雨森芳州の苦悩」

○詩

文 重烈……………「詩3篇」（朝鮮語・日本語対訳）

○エッセイ

加藤忠和……………「白地図」
朴 燦鎬……………「人のつながりとご縁」
郭 星求……………「GOOD BYE SUMMER」

○「酒幕のこと」「読む会のこと」 会録 あとがき

13号（1993年夏 7月15日発行）

○小説

申 明均……………「サットンの誓い」
磯貝治良……………「羽山先生が笑う」

○評論

文 重烈……………「民族主義と民主主義と」

○エッセイ

朴 燦鎬……………「異境にしみた恨の歌声」

朴 明子……………「随想 2 篇」

○「長水苑のこと」「なかまの仕事」 会録 あとがき

14号（1994 年夏 7 月 1 日発行）

○小説

磯貝治良……………「道のむこう」

文 真弓……………「ふくろう」

申 明均……………「輝きの時」

賈島憲治……………「雨森芳州の運命」

○紀行・エッセイ

蔡 孝……………「ソウルまで—「在日」文学の故郷体験とともに」

朴 燦鎬……………「そして『西便制』—二十数年ぶりの韓国」

○「磯貝治良小説集のこと」 会録 あとがき

15号（1995 年夏 7 月 1 日発行）

○小説

文 真弓……………「ビー玉」

渡野玖美……………「苦い果実酒」

申 明均……………「成仏を願う男」

磯貝治良……………「夢のこちら」

柳 基洙……………「郭公の故郷」（加藤建二訳）

○短歌

吉岡 卓……………「赤とんぼとハルモニ」 11 首

○エッセイ

朴 燦鎬……………「文字の表記、言葉の変化などについての雑感」

○「読む会 200 回に寄せて」

磯貝治良 間瀬昇 趙眞良 成真澄 中山峰夫 浅野文秀 朴燦鎬 西尾斉

劉竜子 蔡孝 大泉幸子 加藤建二

○「名称のこと」 会録 あとがき

16号 (1996年夏 7月1日発行)

○小説

- 磯貝治良……………「漁港の町にて」
申 明均……………「オモニの予言」
文 真弓……………「大潮」
金 南一……………「霊魂と形式」(加藤建二訳)

○短歌

- 梨花美代子……………「韓国の地ふみたり」21首

○紀行

- 磯貝治良……………「韓国ふれあいの旅」

○エッセイ

- 趙 眞良……………「自己再発見と系譜」
朴 燦鎬……………「「キン・シガ」とは、あんまりだ」
津田真理子……………「卞元守からのメッセージ」

○会録 あとがき

17号 (1997年夏 7月1日発行)

○小説

- 磯貝治良……………「友人の領分」
文 真弓……………「空気だま」
申 明均……………「許されぬ者」
柳 基洙……………「パルチザンの涙」

○エッセイ

- 蔡 孝……………「再び韓国へ」
津田真理子……………「霧一私と朝鮮人」
梨花美代子……………「八月の旅」
朴 燦鎬……………「下手な省略、災いのもと!？」
渡野玖美……………「名古屋通い十二年の成果」

○「<読む会>あれこれ」 会録 あとがき

18号 (1998年夏 6月15日発行)

○小説

- 申 明均……………「変々凡々」
渡野玖美……………「九月のうた」
李 淑子……………「パダンの丘」
磯貝治良……………「青の季節」

- 自分史
北原幸子……………「この人の世の片隅で一身体障害のある女性であるということ」
- 記録
間瀬 昇……………「邂逅と永訣—村松武司のこと」
- 詩・短歌
卞 元守……………「雪解けの頃」
梨花美代子……………「花大根の花の咲く」20首
- エッセイ
岩田多万亀……………「隣人」
朴 燦鎬……………「“差別、差別語”で思い出すこと」
- 「ある鎮魂祭」 会録 あとがき

19号（1999年夏 7月1日発行）

- 小説
磯貝治良……………「檻と草原」
- 詩・短歌
卞 元守……………「あおあらし」
梨花美代子……………「厳寒の中国国境地帯からの便り」12首
- 記録
朴 燦鎬……………「すべての河は海へと流れる—韓国歌謡史番外・在日篇」
- エッセイ
間瀬 昇……………「村松武司追悼」
津田真理子……………「「わが継母」—三十八度線からの帰国」
- 「ある文学空間の予感」 『カラマーゾフの兄弟』と『ゴールドラッシュ』
会録 あとがき

20号（2000年夏 7月1日発行）

- 小説
劉 竜子……………「10セント」
磯貝治良……………「すゑの話」
賈島憲治……………「雨森芳州の悲しみ」
- 短歌
北原幸子……………「わたしのなかのわたしたち」11首
- エッセイ
朴 燦鎬……………「“韓国演歌”などと、言わないでくれ」

李 潤一……………「＜読む会＞という機会」

○『架橋』20号まで—あとがきを借りて 会録 『架橋』総目次

21号 (2001年夏 7月1日発行)

○小説

磯貝治良……………「水について」

劉 竜子……………「夜汽車」

○短歌

北原幸子……………「わたしの中のわたしたち」5首

○エッセイ

朴 燦鎬……………「わが若き日の“武勇伝”」

○評論

廉武雄 「自由精神で露となって研がれた刃の輝きの言語—趙泰一の詩を読む」
(加藤建二 訳)

○コラム 一葉のハガキ (卞元守) 三千里鐵道って何？

○会録 あとがき

22号 (2002年夏 7月1日発行)

○小説

磯貝治良……………「シジフォスの夢」

劉 竜子……………「白い花」

宋 基淑……………「道の下で」(加藤建二 訳)

○エッセイ

朴 燦鎬……………「宋建鎬先生を悼む」

○紀行ルポ

磯貝治良……………「三千里鐵道の旅」

○コラム 「戦争したい法制」三法案

○会録 あとがき

23号 (2003年夏 7月1日発行)

○小説

磯貝治良……………「革命異聞二〇一五」

劉 竜子……………「ウトロ」

ビヨン ウォンス…「あられ」

○エッセイ

朴 燦鎬……………「私の一九七二年」

- コラム
- 会録 あとがき

24号 (2005年春 1月1日発行)

- 小説
 - 磯貝治良……………「路上の詩人」
 - 立花 涼……………「見殺し」
- 詩と川柳
 - 原田芳裕……………「在るということ」
 - 韓 日珠……………川柳
- エッセイ
 - 朴燦鎬……………「현해탄」は「玄海灘」である
- コラム
- 会録 「ある集い そして あとがき」

25号 (2005年冬 11月15日発行)

- 小説
 - 磯貝治良……………「弾のゆくえ」
 - 劉 竜子……………「旅人宿 酒幕」
 - 立花 涼……………「石の声」
- 詩
 - 中島和弘……………「詩3篇」
- エッセイ
 - 朴 燦鎬……………「“越県合併”に憶った事ども」
 - 磯貝治良……………「裁判官の戦後責任を問う」
- コラム
- 会録 あとがき

26号 (2006年冬 11月25日発行)

- 小説
 - 立花 涼……………「逆なで」
 - 磯貝治良……………「自画像へ」
- 詩
 - 中島和弘……………「詩2篇」
- エッセイ・評論
 - 浮葉正親……………「日韓国際シンポジウム 2006「在日朝鮮人文学の世界」に参加して」

朴 燦鎬……………「苦く、やる瀬ない記憶」
磯貝治良……………「〈在日〉文学の女性作家・詩人」

- コラム
- 会録 あとがき

27号 (2008年春 2月1日発行)

- 小説
黄英治……………「睡蓮の祈り」
磯貝治良……………「人差し指の十六歳」
- 評論・エッセイ
磯貝治良……………「ボクシング表現考」
朴 燦鎬……………「鬼神のような」
立花 涼「闘いながら歩いてゆくこと—磯貝治良「弾のゆくえ」論」
- コラム
- 会録 あとがき

28号 (2009年春 2月1日発行)

- 小説
黄 英治……………「あの壁まで」
立花 涼……………「On the borders (国境の上で／について)」
劉 竜子……………「山崎川」
磯貝治良……………「往還する人」
- 評論・エッセイ
細井綾女……………「アズズ・ベガク—マグレブ系仏語文学」
浮葉正親……………「虚虚実実—ムーダン(巫堂)との出会い」
朴 燦鎬……………「咲」の音読み、できますか？
許 長順……………「生きる」
- コラム
大討論「浮遊する在日コリアン」
- 会録
- あとがき

29号 (2010年春 2月15日発行)

- 評論
立花 涼……………「翻訳の思想 佐藤泉の金石範論への応答」
- 詩

丁 章……………「まぶしい同学」

○小説

磯貝治良……………「置き忘れたもの」

○エッセイ

細井綾女……………「ブールの表現者たち」

浮葉正親……………「世襲巫という生き方」

朴 燦鎬……………「海峡を越えて、いま」

○私的ドキュメント

磯貝治良……………「文学ときどき人生——文学の旅・素描」

○コラム

○会録

○あとがき

30号 (2011年春 1月15日発行)

○小説

磯貝治良……………「家の譜」

黄 英治……………「特別面会——続あの壁まで」

劉 竜子……………「大伯母（クヌメ）」

○評論

立花 涼……………「磯貝治良「置き忘れたもの」論」

○詩

パゴ英子……………「名誉白人たちへの献辞」

○エッセイ

浮葉正親……………「「東大教授」になりそこねた日——ある巫俗人団体の総会にて」

朴 燦鎬……………「二人の音楽人の訃報」

磯貝治良……………「『架橋』21号～30号のこと——あとがきを兼ねて」

○『架橋』21号～30号目次

○コラム

○会録

31号 (2012年春 1月15日発行)

○小説

磯貝治良……………「消えた——小説「3・11」

黄 英治……………「駄々っ子——あの壁まで・変奏曲」

磯貝治良……………「ウニムの場合」

○詩

丁 章……………「アボジがない」

○評論

パゴ英子／立花涼…「目取真俊『眼の奥の森』論に向けて

○エッセイ

朴 燦鎬……………「한글の短歌・俳句で「ん」の文字数は？」

○コラム

○会録

○あとがき